

スイートコーン栽培におけるコンパニオンプランツの検討

専門学校山梨県立農林大学校 大原農永 李優美

【目的】

国はみどり食糧システム戦略で2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合25%（100万ha）に拡大することを目指している。
山梨県において主要な作物であるスイートコーンは現状害虫対策のため2回農薬による防除をしている。そこで、農薬に頼らず栽培方法の1つとして異なる種類の野菜と一緒に栽培することで、病虫害の抑制や成長の促進など互いにより影響を与え合う「コンパニオンプランツ」をみつけた。
そこで、相性のよいと言われている大豆(枝豆)と一緒に植えることにした。

【取り組み内容】

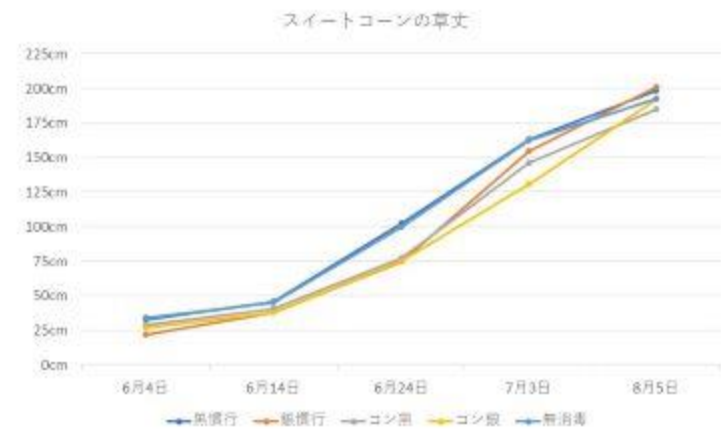
試験区	農薬散布	畝の概要
慣行区	あり(2回)	畝幅70cm 株間27cm 2条植え
慣行区 銀マルチ		
コンパニオン区 黒マルチ	なし	
コンパニオン区 銀マルチ		
無消毒区		

※枝豆はスイートコーンの間に播種

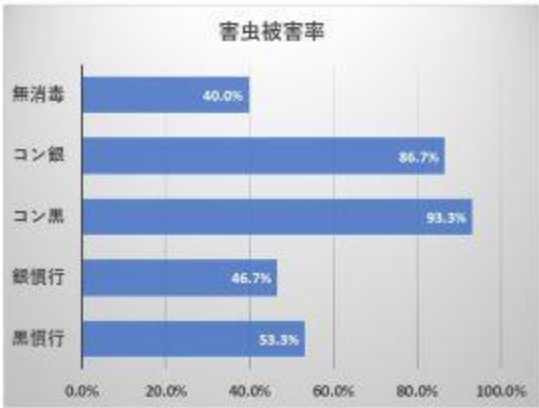
- 調査項目および方法
- ・生育調査（スイートコーンの草丈）
 - ・収穫調査（スイートコーンのむき身長、むき身重、先端不稔率）
（枝豆の収量）
 - ・品質調査（糖度）
 - ・食味調査（アンケート）
 - ・被害調査
（果実の病虫害被害 粘着トラップによる発生量調査）



【結果】



スイートコーン	
糖度	
黒慣行	19.8
銀慣行	19.9
コン黒	19.8
コン銀	20.1
無消毒	20.2



- ・枝豆に栄養を吸収され、草丈や糖度が低くなると思ったが、結果にあまり変化はなかった。
- ・銀マルチ（シルバーマルチ）の方が多少害虫被害は少なかった。
- ・害虫の被害に関してはコンパニオン区が多く、今回はよい結果が得られなかった。

【考察】

- ・コンパニオン区で育ったえだまめは茎が細く実の付きが悪く収穫できなかった。なので密植のしすぎや枝豆との生育のタイミングが悪かったと感じた。
- ・今回は失敗してしまったが、糖度的には問題が無かったので改善していけば環境に配慮した栽培方法で豆類の根粒菌によって追肥も削減できるのではないかとと思われる。

